

【足立区地域包括支援センター運営協議部会】概要

会議名	令和５年度 第２回足立区地域包括支援センター運営協議部会		
事務局	福祉部高齢者施策推進室地域包括ケア推進課		
開催年月日	令和６年 ２月２９日（木）		
開催時間	午後２時００分 ～ 午後４時００分		
開催場所	足立区役所 中央館８階 特別会議室		
出席者	大口 達也 部会長	賀川 幸英 副部会長	和田 庸右 委員
	鈴木 康大 委員	鵜沢 隆 委員	中村 輝夫 委員
	鈴木 由美子 委員	村岡 孝次 委員	結城 宣博 委員
欠席者	花田 豊實 委員		
会議次第	別紙のとおり		
資料	・ 足立区地域包括支援センター運営協議部会資料		
その他			

○瀬崎課長 ただいまから、令和5年度第2回足立区地域包括ケアシステム推進会議地域包括支援センター運営協議部会を開催いたします。

本日はお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めます、地域包括ケア推進課長の瀬崎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

傍聴人はなしですのでよろしくお願いいたします。

机上にご案内させていただきました資料の確認をさせていただきます。1枚目に「地域包括支援センター運営協議部会次第」です。2枚目に「委員名簿」、3枚目以降「協議・報告資料」ということで、別紙1「地域包括支援センターの業務委託評価結果」、別紙2として「令和6年度地域包括支援センターの運営方針（案）」、以上でございます。不足等がありましたら、挙手をお願いいたします。

よろしいでしょうか。

本日のこの会議につきましては、足立区地域包括ケアシステム推進会議地域包括支援センター運営協議部会設置要綱第8条に基づきまして、過半数の委員がご出席して成立いたしますので、ご報告いたします。

皆様から活発なご意見、ご質問いただくため、迅速な会議進行にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。また、会議録に作成される録音をいたしますので、あらかじめご了承ください。

それでは大口部会長の開会のご挨拶よろしくお願いいたします。

○大口部会長 皆様、こんにちは。第2回ということになります、地域包括支

援センター運営協議部会よろしくお願いいたします。

今回、一番大きな議題としては、業務委託評価ということで、かなりいろいろな形で関わってくださった委員の方々もいらっしゃるかと思います。この間、1月1日の元旦に大きな震災があって、心がざわつく中で、委託評価で3日間ないし数日間いた方もあると思うので、後ほど感想などもお聞かせいただき、皆さんと共有していければと思います。震災がある地域でも、発災から1、2カ月たつ中で、徐々に地盤があるところから復興しているという状況もあります。今後足立区でも何が起こるか分かりませんので。いろいろな風を入れながら、ハウカツを支えていただければと思っています。

一方で、4月からは制度改正ということで、介護保険制度改正に伴い、大きな話が出てきています。3月には地域包括ケアシステム推進会議がありますので、そこにつなげていけるような議論を、4時までの間、いろいろと議論できればと思いますので、今日は何とぞよろしくお願いいたします。

○瀬崎課長 ありがとうございます。それでは、賀川副部長からもご挨拶をお願いいたします。

○賀川委員 皆さん、こんにちは。副部会長の賀川と申します。まだまだ、コロナも多い中で、医療機関も介護施設も在宅も、恐らくハウカツさんも大変だと思います。3月になって少しずつ減少、収束方向に向かえばというところで、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○瀬崎課長 大口部会長、賀川副部長、ありがとうございます。

それでは議事に移らせていただきます。議事進行を大口部会長、よろしくお願いします。

○大口部会長 それでは次第に書いてある協議事項1の令和5年度に行われた地域包括支援センターの業務委託評価について、最初に事務局からご説明お願いいたします。

○坪井係長 それでは、地域包括支援センター担当坪井から説明をいたします。

資料の1ページをご覧ください。件名は「地域包括支援センターの業務委託評価について」でございます。

まず(1)の実施方法です。ハウカツの業務委託評価ですが、昨年度から本格実施をしまして、今年度は2回目を迎えました。実施方法は4つの視点で実施しています。

シートをご覧ください。まず「自己評価」です。こちらは評価者がハウカツの職員で、方法は区が配布した業務内容に関する調査シートで実施しています。

次に、「委員評価」です。こちらは評価者が大口部会長以下5名で、方法はセンター長とヒアリングを実施しました。

続いて、「履行評価」と「取組評価」ですけれども、こちら評価者が、区職員で、方法はハウカツの月報等の実績表に基づいて、評価シートで実施しております。

続きまして、(2)の「評価結果」ですが、今年度は評価の8割以上である「良好」だった包括が25か所、全部でございました。

昨年度、評価が「普通」だった6か所に関しましては、個別に出張研修を行ひまして、業務改善をした結果、「良好」になっております。

また、ハウカツごとの「評価結果」については、別紙のとおりになっておりますので、そちらをご覧ください。

5枚ほどめくりますと、レーダーチャートの各ハウカツの評価結果が出てきます。レーダーチャートに関しましては、全部で10事業です。灰色の線が平均点でございまして、黒色の線がハウカツの評点でございます。10点で、レーダーチャートをつくっておりますので、若干見にくいですが、ご了承ください。

評価委員の「講評」については、レーダーチャートの下に記載をしております。今回、委員の方に講評していただいた結果をこちらで精査しまして、掲載しております。

右の評定でございますが、昨年度と対比できるように、令和4年度と5年度、両方を記載しております。一番右に、三角で表示されておりますのが、昨年度と対比して下がっている項目となっておりますので、参考にしてください。

続きまして、(3)です。1ページに戻りまして、(3)の「公表方法」ですが、3月に開催します地域包括ケアシステム推進会議で報告いたします。その後、足立区のホームページに掲載したり、各ハウカツに通知をしたりして、公表をしていきます。

最後に、令和6年度の「業務委託評価」も、今年度と同様な方法で実施したいと思っておりますので、こちらは協議事項としたいと思っております。

以上でございます。

○大口部会長 ありがとうございます。議論することはたくさんありますので、1つずつ区切りながら皆さんと意見交換や質疑をしていきたいと思っております。

今、ご説明があったハウカツの業務委託評価についてということ、皆さんに質疑、意見交換ということでお伺いしたいと思いますが、私から最初に確認をしてもよろしいですか。

今ご説明があった資料についてですが、公表方法について、推進会議やホームページとあったりするのですけれども。概要のグラフのついているページ自体が、今度の3月の会議に資料として出されて、その後ホームページにもアップされるということでしょうか。

○坪井係長 おっしゃる通りです。

○大口部会長 全体についている経緯や説明など一緒につけたものをアップする予定ということですね。

○坪井係長 おっしゃる通りです。

○瀬崎課長 ホームページの公表は、6月の議会に報告してからホームページに載せるのでタイムラグがあります。

○大口部会長 スケジュール的には、いろいろなところに見てもらって、報告して、7月に入る前ころにアップされるということですね。

○事務局 7月には掲載する予定となっています。

○大口部会長 ありがとうございます。

あと、事前に配付されている資料ではないので、恐らく初耳の方々が多いのではないかと思います。私も始まる15分か20分前に来て見せてもらったのですが、すごく細かいので、1つずつ見ていくと時間がかかると思います。恐らく皆さんが見ていくときに、関心があるのが、区民目線で考えると、このグラフのページを開いたときに、一番左下の「評価委員の講評」にどういうことが書かれているかを見て、そのあと、総合得点が

上についているので、足立区全体と比べて、どれぐらいの違いがあるのかと見つつ、各事業者など、それぞれの立場の方からすると、個別の医療連携はどうかとか、そういうところを見るのではないかと思います。

私たちの視点からどういうものが見えるかということも大事だったりしますが、これをハウカツの法人の方や実際に運営されている方がこれを見て、次にどうしようかということ考えるということになると、感じ方や捉え方が様々な状況になるのかなと推測されます。

なので、今回評価に関わって、実際の評価は、30分から1時間ないし、聞いた方もいらっしゃれば、今回初めて見たという方々もいらっしゃると思います。それぞれのお立場からこれを見て、どんな感じかというところを、ご意見を頂けるといいなと思います。

議題は幾つかありますが、一番大きな議題が多分このハウカツの業務委託評価の議題になると思っていますので、お一人ずつお伺いしていてもよろしいでしょうか。

では、実際に評価をした方々から話を聞いていきたいなと思います。ご意見、全体への意見でも何でも構いません。

村岡さん、いきなりですけども。感想を含めて、いかがですか。

○村岡委員 評価委員としてお話を聞いて、どのハウカツもこのコロナ禍の後、いろいろな行事がなくなったのが復活してきて、すごく活発に動いていらっしゃるなという感じがしました。

今まであった集まりが徐々に回復してきて、これからどんどん上がっていくのではないかなと思いました。

○大口部会長 ありがとうございます。
賀川先生からもお話あったとおり、コロナということはいろいろなものに影響を与えているということですね。

○賀川委員 患者さんたちもそうですが、職員の皆さんも当然感染のリスクはありますので、その中でどこまでハウカツの事業をすることができるかということですね。

今、2月は大変です。まだマックスピークが続いていますので、先ほど申し上げましたように、3月から本当に下がってくるどうか、まだ分からないところですから。

そういった中で、また今後も恐らく第10波、11波のピークがくると思いますから、その時にどこまでいろいろな方を見ていけるか、寄り添っていけるかというところだと思います。

○大口部会長 そういった意味で、先ほど村岡委員が言われたように、オフピークというか、少し下がっているときにいろいろな催しものも復活してきたというのは大きいということですよ。

評価自体はやってみてどうでしたか。

○村岡委員 お話を聞くと、一生懸命やっていらっしゃるなと感じは受けます。手抜きなくというか、気付いてよくやっていらっしゃるという印象を受けました。細かい説明もやっておられました。

私は専門的なことは分からないのですが、職員の方が、過去ご苦勞されていることも、今苦勞していることもありますし、スキルアップも一生懸命やっていらっしゃるので、時間がないところもあるのではないかなという感じを受けました。

○大口部会長 ありがとうございます。

鈴木委員はいかがでしたか。

○鈴木委員 初めてこの評価に参加させていただいて、今まで区民としてハウカツさんには大変お世話になっているのですけれども、とても大変なのだとすることを、今回勉強させていただきました。

知らない言葉もたくさん出てきたので、すごく勉強になったということと、ハウカツの職員の方たちをもっとねぎらわなければいけないなと思いました。

制度が結構厳しくて、また、制度改革があるとお話があったので、少しでもいい方向に変わっていけばいいなと思いました。

以上です。

○大口部会長 評価のときにも、委員の皆さんからも応援とかサポートの声を届けられることもありましたね。

中村委員はいかがでしたか。

○中村委員 ハウカツの職員が一生懸命やってくれることは分かっていますが、評価の時に、パネルを持ってきて、説明をしたハウカツの方がいました。あれだけの情熱と余裕があるなら、もう少し利用者に関わってほしいという感想を持ちました。

それと、別に場所は言いませんが、昔から比べると、偉くなってしまったせいか、尊大な態度を取っていたところがありました。前、会ったときはもっと腰が低かった。慣れてくるとそうになってしまうのかね。その辺は分かりませんが。とにかく、相談に行きなさいと言っても敷居が高いと言うのです。だから、地域の中へ入っていくには、もっと敷居を下げて、気軽に行ける場所になってほしいと思っています。

以上です。

○大口部会長 区民目線から貴重な意見。ありがとうございます。

今回、ハウカツ側がこれを評価にける資料の作成の手間も含めて、いろいろと私たちも考えなくてはならないなと思います。区民目線で考えていくと、応援の視点もあれば、こういうところも期待したいという、いろいろな視点があるということです。そういったところもしっかりと伝えられればと考えます。ありがとうございます。

結城委員、いかがですか。

○結城委員 まずは、評価の表を見て、「良好」が25、全部ということで、ほっとしました。「普通」だったところも、去年出張研修させていただいて、少し改善されたのかなというところでは、すごくよかったと思っています。

評価当日については、かなり評価委員側、または区の職員さんからの質問が中心だったので、センター長の方々、または携わる方々がもっとアピールする時間がなかったのかなというのがあって、少しもったいない気がしています。

あと、この評価表は、履行評価と委員評価については、比較的分かりやすいのですが、それ以上の取組評価は、区の職員さんで行っているのが、どこでこの差が出たのかというのが、この後オープンにされない。上位のところと下位のところで、どこでどう差が出て、どうすればより取組評価で上がっていくのか、会議などですり合わせていかないと、ハウカツの皆さんが頑張っても、どうしても差がついてしまう。その差の埋め方を言っただけだと、多分いつまでたっても差が埋まらなくて、一生懸命やっても、それでも順位がついてしまうと、や

っぱりすごくモチベーションが下がってしまうということになるのかなという印象を持ちました。

以上です。

○大口部会長 ありがとうございます。そこら辺は、事務局としてどうですかね。

○坪井係長 今、考えているところは昨年度より下がっている項目が複数のハウカツに関しては、また来年度、出張研修をしようと思っています。

○結城委員 その下がったハウカツに対し出張研修をしても、なぜ下がったのか、また取組評価のどこで引っかかったのか開示してあげないと、なかなかうまく改善していかないのではないかなとも思います。ただ、それを全部言ってしまうと、全部そこに合わせていってしまうので、辛いところも分かるのですけれども。

○坪井係長 ですので、出張研修のときにそういうところも改善できるようにお伝えはします。

○大口部会長 ここの取扱いについては、1～2年、今2年目ですが、出張研修のような仕組みもある中で、今結城委員が言われたように、どれくらいのレベルでお伝えしたり、調整したりということは、難しいですね、制度改正などいろいろ求められる中で、一定数を定められるものもあれば、そうではないものもあるということですかね。

○坪井係長 評価項目によっては、その年度の平均で出していますので、どうしても差がつく部分があります。履行評価は一定基準ですが、その上の取組評価に関しては、平均点で差が出てくるので、25のハウカツで評価が良ければ平均も

高くなりますが、そこで差がどうしても出てきます。

○大口部会長 履行というのは、要するに履行という言葉のとおり、やっているかやってないかという、絶対的なものがあり、取組というのは25箇所のハウカツで、いろいろなことを取り組んでいますが、その取り組んでいる状況からしての平均をベースにした形での頑張りの度合いみたいなブレがあるということですね。

○坪井係長 おっしゃる通りです。

○大口部会長 すると、履行と取組、結構大きく違いますよね。取組のところでは、右、左。そうすると、結城委員が言われた、頑張っているというのはどういったところを頑張ればいいのかということころですね。

○結城委員 資料を見させていただいて、分厚い計画書と実績書でどこに差を設けて、どうすれば改善していくかが分からないのではないかと考えています。

○坪井係長 実際は書いてある内容ではなく、開催した内容を見ています。出席者や実際に開催した内容、どういったことについて開催しているのか。

なので、活動報告書を上手に書いてあるかではなくて、開催内容です。

○結城委員 例えば内容が悪かったところについては、この辺を改善するとさらに上がっていきますよ。そういうご指導をしていくということですか。

○坪井係長 そうですね。区が示している、マニュアルどおりの内容のものを開催していれば、点数はいいのですけれども、マニュアルに書いていない内容や偏った内容で開催すると評価がされにくい傾向にあります。

○結城委員 そうしていただけると、少しずつ改善ができると思うので、よろしくお願いします。

○大口部会長 ありがとうございます。概要の2ページの、履行評価、取組評価のところに記載がありますが、所管課の名前と各業務が分担して見えています。ここまで分担して見ている自治体は全国でもとても稀有で珍しいです。しっかり手厚く、それぞれの視点から、実際に担当している所管課がどういう状況かということの日頃、ハウカツとも連携を取りながら、取組評価をされているのかなと思います。

私たちが行っている委員評価が、それでも見えないところを区民目線の評価で、カバーしているということもあるので、三重構造になるかと思います。

○中村委員 評価で、「不良」がなかっただけいいと思います。

○大口部会長 そうですね。私の感想では、全てが「良好」になったので、これからのかなと思っています。スタートラインに乗ったという。ここから先、ハウカツも波があるのは皆さんご存じのとおりです。「普通」や「不良」となるハウカツがあれば、それを重点的にサポートしなくてはならないという意味合いで見えていくということ言えば、これから25ハウカツがずっと「良好」な状態を維持していくことが、足立区としても理想なのかなと思ったところですよ。

委員の方でそれぞれハウカツと関わっていらっしゃる立場から、先生方のご感想とかご意見を聞きたいと思うのですけれども、いかがですか。

○鶴沢委員 まずは、全てが「良好」になられたということで、その努力をされ

たのだなと感じている次第です。以前にも申し上げたことですが、このレーダーチャートがどうしても平均を出す以上、平均と比べて上下が出てしまいます。みんな「良好」なんだということが、書いてはありますけれども。もちろん「良好」だからこれでいいというわけではなくて、さらに質を高めていただきたいという内部的な発信が必要かと思います。

区民の方がこれを見たときに、ハウカツさんは基本的に好きなところを選べるわけではないので、自分のところは低いのだということが、ネガティブに捉えられる可能性があるのかなと。

ただ、これだけみんな高い点数を出していますから、委託元としては、もちろん改善の余地があるとはいえ、十分なレベルだということを、全面に出して差し上げるほうが、頑張ってきているハウカツさんへの報いになるのかなという気はいたします。

また、波があるというのは、事業所の立場でも同じですけれども、ハウカツ単位だけでなく、個人単位で、事業所としてはお付き合いしたりするものですから。この個人評価のところ、波があるときに、いわゆる所内での平準化というのをどう取り組んでいращやるのか、そういうところは気になるころだったりします。

あと、数字で出せる評価と出せない評価というのがあと思うのです。これはケアマネジャーと全く一緒なのですから。毎月40件きれいに仕事をしていくことはもちろん必要ですが、それだけではない部分、例えば10件訪問しなければいけないところが、8件で止

まったけれども、その内容ですよ。おぎなりの訪問をするよりは、8件は丁寧に診てきたほうが、利用者、あるいは住民の評価は高いという視点もあるので、その辺が数字では計れないところを取組評価とか、別なところでしっかりと評価ができるといいのかなと感じるところです。

以上です。

○大口部会長 ありがとうございます。個別のところを見ると、実際に評価の資料を読んでみると感じたとおりの点数の部分では、ほかと比べると低いかもしれませんが、中味の文章を読みますと、点数は低いけれど頑張っていますという様子が見られるところもありました。こういうところが厳しいところだと思います。文章から読み取れたりする部分もあるので、うまく両方を見ながら評価していくことも大事だなと思います。

総括評価みたいなものが、8ページに書いてあったりするのですかね。

ハウカツがPDCAを回しているわけですが、かなり水準が高い状態になったと思います。いろいろなところのハウカツを見ているんですが、足立区は全国的にも、標準レベルではなくて、高い水準を維持しているので、人材確保が大変だということのお気持ちも酌み取っていく必要があるかなと思います。

こういうところ、見せ方とかも確かにいろいろと伝えていかなくはいけないのだろうなと思いました。

和田委員、いかがでしょうか。

○和田委員 直接、地域包括支援センターに関わるということはほとんどないのですが、できるだけ地元のハウカツが行

っている「絆のあんしんネットワーク」には参加させてもらっています。昨日日の出で開催していたので、参加させてもらいました。あんなに頑張っているのに意外と平均点が低いのだなと思いました。あれは、各ハウカツ独自に行っているのでしょうか。

○大口部会長 今回の絆の話もこの10番の寄り添い支援活動も、絆のあんしんネットワークの取り組みなので、業務の1つとして私たちも話を聞いたりするところです。

○和田委員 結構集まっているみたいですね。

○大口部会長 そうですね。頑張っていますよね。

○和田委員 いろいろな関係の方が来ているので。ほかはどうなのかなと、いつも感じていますけれども。

○大口部会長 今、すごく大事なお話を和田委員から言われたのですが、本当に頑張っていらっしゃるのです。それは、実際の区民目線で見ただけからしてもそのとおりです。あとはバランスということもハウカツによっては大事だろうなと思います。私も幾つかのハウカツを見ていく中で、10個も業務があって、しかも細分化したらもっとたくさんあるという中で、一部に特化するという方向性、戦略も確かに大事かもしれないのですけれども。全体的にいろいろな業務をこなしていくということも大事だったりします。その中で、評価として点数が出てしまうので、なかなか難しさがあるのですけれども。

○和田委員 職員の入れ替わりや異動があるので、そういうのもあるのかなと思います。

○大口部会長 そういうのもありますね。それでも、実際関わってみるとすごく活発にやっているなという。そこら辺はプロの方々、ハウカツの方々をそろえてやっているということの良さなのかなと思います。

○和田委員 ほかのハウカツはよく知らないのですが、あそこだと、千寿の郷とかがあります。幾つか合同でやる時に、お会いすることあるのですけれども、基本は日の出が一番多く関わるかなという感じなので、ほかはどうなのかなよく分からない。

○大口部会長 ありがとうございます。

鈴木委員、いかがですかね。お願いします。

○鈴木委員 先ほどからお話になった、評価の仕方ですが、そもそも総評として高水準となっているではないですか。これは、いいことは全面に見やすいように、まとめてもらって、最終的にホームページ上に載せるわけなので、これをまず表に出すのが先かなと思いました。

そうしないと、点数の分かりやすい部分だけ見てしまうと、自分の該当しているハウカツは、点数が良くない、でも全体がすごく高水準というわけなので、その中の平均よりちょっと下ぐらいだったら、全国で言ったら高水準なわけですから、その見せ方は工夫が必要だなと思いました。

あと、講評は全部目を通していたのですが、ところどころキーワードでこのハウカツさんはこういうことを特別に行っているというキーワードが入ってくるのです。

独自の取り組みを行っているところもあれば、たまたまその地域にブレイン的

な特化した人がいると、そこに協力しやすくなるというのがあったりします。いい点として、うちの地域はこういうことをやっているという、ハウカツさんだけの集まりの会もあるではないですか。そこでも多分、うちの地域ではいろいろなことをやっていますという報告会があるわけですね。

ここの部会では評価をやっているわけなので、せっかくこの外部評価として取り組んだわけですから、それを単純に点数どうこうではなくて、それぞれの地域でこういういい取り組みがありました、みたいなことを、外部評価委員の人たちが、ハウカツさんの集まりにフィードバックする。そうすると中には、この地域ではこういうことをやっているのだ、うちではこういうことはやれないけれども、やってみたい、みたいなものも出てくる可能性があるのです、ご自身たちで、集まって話し合っている良い事例とは別に、外部評価としてのいい事例があるはずなので、そういう事例をもっともっと表に出るようにすると、区民目線でも我々協力する側としても、すごく目に見えて良くなるのではないかと思います。

多分、悪い点はほとんど書いてないので、悪い点ではないのですよね。いい点をみんなで共有して、平均点だった人はさらにいい点にするというだけの話なので、悪い点を改善というお話は基本的になくて、悪い点数があったとしても、今は人員不足でできませんとか、原因が分かっているところだと思います。そこは、もちろん頑張ってもらったところではありますが、そこまでは言えないので。今やっているところの中で、いい点同士を上げ合うということは、外部評価して

いる上では、大事なことはないかと思いました。

○大口部会長 ありがとうございます。とても大事なところです。

私たちが、集まって見てはいますけれども、ハウカツさんは25箇所あって、約250人の職員さんがいます。本当に様々な取り組みを各地域でやっています。それを外部評価という形で見ることこそ、いいところを評価するというよりも、情報提供も含めてそういうふうに応援していくということも、私たちの役割だったりするわけです。その辺りを前に出せるよう、今後も評価はまとめ方も含めてやっていくということが大事かということですね。

今は運営協議部会で評価結果を見ていますけれども、推進会議でもこれが出たりとか、議会でも出ていく中で、この結果の出し方も、今お話があったような形で、ここの部分を分かりやすく整理したり、表にしたり、外部に出したりなどが改善されて、7月に公表されるイメージですか。

○坪井係長 まだ変更は可能です。

○大口部会長 今年だけではなくて、次年度も続いていきますので。私たちはこうして続けていく中で、ここら辺はこう見せたほうがいいのではないかなというところを、次回の第1回の運営協議部会の中で、いろいろと議論していくというのもありかなと思います。並行しながら、よりよいものを区民またはハウカツの方々や法人の方々に公表して見せていくという形ができるかなと思います。

でも、こちらの概要の4ページに、点数を出したあとの流れというのを簡単に整理されていますが、一番最後の評価結

果の説明のところで、今鈴木委員が言われた、ほかのハウカツで展開可能な取り組みとかも、結果を示すだけではなくて、各ハウカツにいろいろな立場からそれぞれの担当から伝えていくことも、意図されているということですね。

○鈴木委員 あと、うちは薬剤師会なので、複数地域、賀川先生みたいなクリニックや、病院もそうだと思うのですけれども、多方面から来るのです。ハウカツさん単位で行ったら、区分け・線引きされてしまっているのですけれども、我々は線引きはなく働いているのです。ですので、隣の地域の人たちでも、いい案を上げること、いい取り組みをしている組織があったら、そこに声かけをしやすくなると思います。医療機関はそういう性質で、介護とは若干、毛色が違うのです。

ぜひ、よい意味で医療的リソースというか、今のいい案は出してもらえると、モチベーションが高まるなど、我々にとってもいい面があるので、「ああいうことをやっているのだったら、うちも協力しなきゃ」となったりするので、ぜひそれは前向きに検討してもらいたいなと思いました。

○坪井係長 分かりました。

○大口部会長 ありがとうございます。この仕組みは、私たち委員のほかに、役所の管理職の方も参加していただいているという中で、こういうこともこの地域でやっているのだとか、こういうこともあるのだということを、ハウカツも評価の中で感じ取っていただくという機会にもなりますので、今言われたことみたいなことを、庁内やそれぞれの関係機関でも、また私たちももっとちゃんと共有で

きるといいのだろうなと思うところで

す。

ありがとうございます。

では、賀川先生、お願いします。

○賀川委員 医療機関もあちこちのハウカツから連絡が入ってきますので、鈴木先生がおっしゃいましたように、いろいろ特徴付けを、我々も見出せることがあります。あと、改善点についても我々からも言えることがあるのではないかな。ただ、改善することはなかなか申し上げにくいのでしょうか。それぞれのハウカツさんにとって、改善することに対しては、意外と大きなエネルギーが必要なのです。

いいところはもっとどんどん伸ばして、改善点についてはエネルギーを取っておいていただければいいかなと思って

おります。

○大口部会長 ありがとうございます。ここの文書には、期待しているだとか、こういうことを頑張ってもらいたいな、そういった意味で転換して書かれている部分もあります。でも、そういった改善というの、私たち共有しながらお伝えしていく、サポートしていくことが大事なのかなと。

ありがとうございます。

最後に私から、推進会議が3月にあるので、同じような議論がまたあるかと思っています。もしかしたら、その参加された委員の方からみたいな形で発言を求められることもあるかもしれないので、そのときにまた皆さんから、ご意見を頂ければと思います。

あとその3月に多少出てくるかなと思う話を、この運営協議部会でもしておこうかなと思うのですけれども。今回、

「良好」「普通」「不良」というところで、「良好」、皆さんよかったという話になったと思います。ただ、推進会議にはいろいろな方々がいらっしゃるので、今回、私たちの点数の配分を変えていたりするとは思っています。去年と点数が違う、配分を変えているというところの部分をご指摘することもあるのではないかなと思うのです。数字を扱っているような方々もいらっしゃると思うので。この「良好」「普通」「不良」というこの6から8割とか、6割未満というところはぶれていないところだったりするわけです。その中で、数点で違いが大きく出るということが比較すると見えてきます。私たちの委員のところも、10点という形にはなっていますが、この10点も結構大きなものなのだということが、今回も分かってはいます。「良好」「普通」「不良」のところの部分をベースにしながら、足立区の状況を大まかに、経年のにも見ていくことを意味しているのだというところを、もし推進会議のところで議論があったら、私から発言しようかなと思っています。一応、運営協議部会のほうで、そのようなことをお伝えしとうかなと思います。

ここら辺は、事務局もいろいろと制度の改正もあり、見直しがどうしても出てくるかなというところですよ。

○坪井係長 そうですね。

○大口部会長 あらかじめ、皆さんに先にといます。ありがとうございます。

1人ずつ聞いてしまったので、その他に何かお気づきの点とかあったりしますか。

○結城委員 評価結果が25のホウカ

ツの平均との差になっていますが、その25のホウカツは「良好」ばかりなので、そことの比較は結構厳しいなと思っています。鈴木委員が言われたように、すごく頑張っている、下がっていると思ってしまう気がします。基本的に8割を超えていけばよいので、8割のところに普通の平均をつけて、それより上にしているかいないかという書き方のほうが、区民からしたときに、ここは頑張っている、ただ下がっているところもある、ここは頑張してほしいよねという見方をすると思うのです。どうしても25の平均で見られると、すごく頑張っているのにもかかわらず、差が出てしまうというのは、すごく辛いところだと思います。

そこの書き方をちょっと変えていただいほうが、私はいいと思いました。

○大口部会長 いかがですかね、皆さん。

○鶴沢委員 例えば、レーダーチャートの中に、赤色でこの中に入っていれば「良好」なんだと分かるようにしてみたらどうでしょうか。これを見ると、頑張っているのに平均より見た目で目立ってしまうのです。内部の資料としてはいいのしょうけれども、区民が見たときにはどうかと思うので、私も同感です。

○大口部会長 なるほど。「良好」と「普通」の境目が8割とで区切っているので、その8というところが、水準が高いのだということと、その8割のところに線をつくって、これよりも上になっていることを見せるということですかね。

ありがとうございます。

○鶴沢委員 この評価を取り入れてからの現場で感じる変化なのですが。例え

ば、地域ケアネットワークは、以前5圏域、エリア毎で開催するのが主だったような気がするのですが、ハウカツさんが個別でやるのが多くなってきたのです。研修受ける側からすると増えているのは悪くないのですよ。ただどうしても時間的な制約もありますし、正直そこまで出られないと思うのです。もちろん個別でやっていただくのもありがたいのですが、圏域でやっていただくと、そこで地域の顔つなぎもできるわけですから、受ける側としては、合同の方がいい面がたくさんあったなと思っています。ただ、評価と関係して点数が出にくくなってしまったから、ということを知ると、もったいないかなと思ったものですから。何か改善の余地があるのでしたら、ご検討いただきたいなと思います。

○坪井係長 分かりました。

○大口部会長 ありがとうございます。恐らく、そのほかにもいろいろな形、例えば去年であれば実態把握のことが話題になっているとか。それぞれお気づきのことがあると思うので、ぜひ事務局に皆さんの立場から気づいたことを、委員という立場で皆さんにお伝えいただければなと思います。

長く皆さん、議論いただきましてありがとうございます。次年度も同様の方法で、やっていくことにはなっているのご提案があったと思います。この評価の仕組み自体も、ハウカツさんと同じように、私たちもPDCAを回して、特に区民によりよいものをしっかりとお示しできるものとしていきたいと思っています。今、言ってくださったように、やってハウカツが変わったとか、こういうところは必要だなということを、皆さんそれぞ

れの立場から関心を持っていただいて、この場でいろいろと議論して、反映したり、まとめたりしていければと思います。

気持ちとしては、ハウカツの方々を応援する会でもあるので、しっかり応援して、サポートができればと思うところです。

では、次第の2番目です。令和6年度の介護保険法改正に関わる部分の説明について、お願いできますでしょうか。

○河内係長 介護予防生活支援担当の河内から「令和6年度介護保険法改正について」の説明をさせていただきたいと思っています。

介護保健法改正、様々な項目がある中で、1つハウカツの業務に関わる内容が含まれておりましたので、その点を今回挙げさせていただきました。

先ほどのお話でもあるとおり、ハウカツはかなりの業務量を行っている中で、介護予防支援という業務もございます。ハウカツは介護予防支援事業所という指定を受けております。介護予防支援とは何かというと、一般的にはまず要支援

1、2、また総合事業のサービスの利用、それ以外に福祉用具や、訪問リハビリを利用する予防給付があります。そういった住民の方の相談を受けて、手続きをする窓口として、ハウカツが一次的に全部受けています。

その手続きを一部、ハウカツに委託をしています。それでもかなりの負担がある中、今後さらにハウカツに対して重層的な取り組みや、いろいろな期待が増えていく中で、ハウカツの負担軽減を目的として、国で話し合われた結果、介護保険法の一部改正の中で、全世帯対応型の

持続可能な社会保障制度を構築するための法律案があります。分かりやすく言いますと、3番にありますハウカツの業務の見直しが盛り込まれました。

今言った、たくさん負担があるハウカツの業務として指定介護予防支援の業務について、支援事業者の対象拡大と書いてあります。今は、ハウカツが対象となっていますが、その一部を居宅支援事業者のケアマネ事業者さんにも、介護予防支援業務ができるように、指定の対象を拡大するという事で、法改正がされました。

要は、先ほど言った窓口業務になる部分を、ハウカツだけではなくて、区から指定を受けた居宅支援事業所も同じく最初の窓口になれるということです。

また、3番の(2)ですが、包括支援業務の中で、総合相談業務の一部をケアマネ事業所に委託することができる。そういった2点が今回の改正で出ております。

私から(1)の指定介護予防支援事業者としての指定の対象についての部分をご説明させていただきますが。こちらの4の(1)にありますとおり、足立区には現在、指定居宅介護支援事業所が189か所あります。本来指定の手続というのは2、3か月かかりますので、そちらの全てが、今後指定を見直すという手続をするには、期限がない中こういった対応をしていくのは、難しいところもあります。2月に区内の事業所宛に、介護保険課で、実際に希望があるかというアンケートの調査をさせていただきました。その中で、4月1日付で希望があるところから、随時説明をしながら手続きをしていくということで、進めているところ

であります。

現在、4月から希望を出されているというところは、この間聞いたところでは、10に満たないということでした。恐らく委託支援事業者からすると、窓口業務ができることで、利用者との接点が増えることや、請求に関わる費用の収入という、メリットになる部分があるかどうかだと思います。

ただ、ハウカツとの一定の関与が必要になっていることや、個人情報の取扱い等、決まりが指定の中に含まれておりまして、そのあたりの負担を重く取られているところが、あまり希望されていないという理由でもあるかと思うのですが。

このあたりは、ほかの自治体の状況を見ながら、随時手続をしていきたいと思っています。

指定の部分については、以上とさせていただきます。

総合相談は、坪井係長からご説明いただければと思います。

○坪井係長 では、引き続き3の(2)について、ご説明をいたします。

こちらが、包括的支援事業の委託規定の見直しということで、ハウカツの数ある事業のうち、「総合相談支援事業」の一部を、ケアマネ事業所に委託することができるのはいるのですが、結論から申し上げますと、4の(2)は当面の間は実施しないことにしました。

理由としましては、今、区とハウカツで、「福祉の森」という共通のシステムを運営しているのですが、その環境整備費用がかかるということ、個人情報のセキュリティ対策も関係してきていますので、そちらのほうも勘案した結果、当面の間は実施しないことにしました。

以上でございます。

○大口部会長 ありがとうございます。
ただ今のいろいろなご説明があったかと思えますけれども、気になる点とかありましたら、皆さんからお伺いしたいと思います。

今回の改正の話というのは、この運営協議部会で話し合っていますが、この運営協議部会自体が国が定める中で、ハウカツの改正に関わることだったり、指定介護予防支援事業者の関することも議論する場でもあるということもあって、話しているところもあると思います。

お気づきの点ありますか、皆さんから。

はい、どうぞお願いします。

○結城委員 国の法律が変わって、すごくハウカツとしてはありがたいと思っていました。

法律は変わっても、いろいろ細かい点が多すぎるため、かなり手間がかかるという印象を、居宅さんやケアマネジャーさんは持っていらっしゃって、手があがりにくいのだらうなと思っています。

ハウカツ職員は、かねてから願っていた予防プランの直受けということで、すごくよかったです。ただ今回の制度設計では、区が悪いとかではなく、国の制度自体がそういうふうに複雑怪奇になって厳しい状況があります。

これによって居宅さんの理解も進んでいないので、手が挙がる場所は10に満たないというのはまさにそのとおりだと思います。逆に10に満たない、何件か挙げたというのは奇跡だなと思っています。ぐらい分かりづらい制度になっています。

これは介護保険課さんでいいと思うの

ですが、説明会等をしていただいて、そんなに難しくないよ、メリットもたくさんあるよということをしつかり説明していただきたいです。手が挙がらないと、委託プランを受託してくれる居宅介護事業者がなくなる気がしてしまっていて、そうするとハウカツが全て予防プランを持たなければいけなくなってしまうので、さらに業務が圧迫するだろうと予測されていて、非常に今ハウカツ職員が震えています。

ですので、今後区からの説明ですとか、ハウカツからも居宅さんに説明をして、そんなに複雑怪奇ではないよということも含めて説明したいと思っています。まず方針を固めていただくことが必要だと思っていますので、ぜひご検討いただけるとありがたいと思っています。

○鶴沢委員 先日介護保険課さんから、急にアンケートが届きましたが、手を挙げたところ、何社か個人的に聞いてみました。「やろうと思った一番の理由は何か」と聞くと、細かいところは調査の内容が分からないので、取りあえず直受けできれば、これまで委託でしかない事業、ケアマネジメントのプロセスが大分楽になるのかなという誤解、それから単純に介護報酬は上がるという情報は入っていますから、そのメリットがあるのだったらやってみようかという声がありました。まだその仕組みや内容がきちんと理解できていない中で、取りあえず手をあげてみたところが数社ありました。でも、圧倒的多数は「何のことか、よく分からないから、まだこの段階で踏み出せないよね」という結果だったと思います。

今、結城委員が言われたようにケアマ

ネジャーからすると、今とても人材不足で、予防も今現在、受けたくても受けられない状態なのです。ただこの制度自体は、これからのハウカツさんの業務を考えるとハウカツさんの負担軽減は絶対に必要だと思っています。現場からもそう思います。

何でしたら、事業所で予防が受けやすくなるのだったら、今回取扱い点数が2分1から3分の1カウントになって、多少、増えますので、その中でやらしてもらうのはやぶさかではないかと思いますが、もう少し中身を説明していただきたいです。

私たち事業所としてもできる限りハウカツさんの業務が可能な限り減らすことができればいいと思います。とにかく足立区内で介護難民、特に予防規模の中の介護難民を出さないことが絶対だろうと思っています。

やり方について、いろいろと議論をする余地があるのかなと感じていたところです。

○大口部会長 ありがとうございます。今、すごく大事な予防の方の介護難民のお話がありました。国目線から見ても、今まで、要支援になったときの窓口はハウカツということは、あったわけですが、それがまた居宅という形の窓口が増えることで、選択肢の幅が広がるという制度でもあったりすると思います。ただ、その部分を安定させるまでには、この2～3カ月で準備せよという難しいオーダーが国から入ってきてしまっているわけです。今、結城委員が言われたとおり、求められているものでもありつつ、居宅もそういったことが整っていけばという話からすると、先ほど河内さんが話され

た、他区の情報などいろいろな情報収集をして足立区にとって一番いい方法を考えていただければと思います。そういった意味で、パイロット的に早くやっている事業者さんなどの情報も得ながら、この仕組みをハウカツの方々や区民にとっていい形で、運用していけるよう発信をしていただければと思います。

おそらく2～3カ月ぐらいすると、いろいろなところでこういうことやっていきますということが上がってくる案件ではないかなと思います。総合事業との絡みとか、本当に細かい制度的なところがあると思うので、そこら辺はぜひウォッチしながら、今のご意見も踏まえていただければと思います。

○河内係長 ありがとうございます。こちらの説明をするにあたって、近隣の江東の5区にいろいろ聞いて回ったり、足立区と人口が近い大田区や世田谷区に聞いたりました。どちらも国の制度の細かい部分がまだ分からない点があって、同じようにアンケートをとって、希望調査をしているという区が多かったです。

実際やっていただくハウカツの方や、居宅事業者の方に負担がなく、ただ業務としては軽減できるような方向に持っていかなければいけないと思うのですけれども。このあたりはご相談しながら制度をつくっていければとは思っております。

○大口部会長 制度的な仕組みの絵の中には、一応、運協も絡んでいる仕組みにはなっていますので、私たちもそういった部分では、意見だとかいろいろなサポートも含めてできればと思いますので、よろしくお願いいたします。

○鶴沢委員 今回の改正でケアマネジャ

一の取扱い件数は、従来40件、原則40件だったのが、原則45件まで可能になりました。予防給付に関しては2分の1カウントでよかったのが、今度は3分の1カウントとなり、若干制限数が増えるのですけれども、件数が増えたからといって、実務的な余裕があるかどうかはまた別問題なのです。

○大口部会長 そういふところの変化も、報酬改定も含めて4月からたくさん出てくると思います。

総合相談はいかがですか。私もこれは、福祉の森を入れているという足立区の特性もありますので、今後ハウカツを地域の身近なところで窓口受けられるようにみたいな意味合いの制度の流れかとは思ふのですけれども。

出張相談など、いろいろな形でハウカツが頑張っているところだと思うので、そこら辺の兼ね合いを見ながらやっていくことになるのかと思います。

○結城委員 ようやくハウカツが窓口だというのは、周知されてきました。あと森システムを入れていただいたことにより、相談自体はとてもしやすくなってきています。それを広げていくと、かなりセキュリティの問題とかも含めて、混乱してしまうのかなと思います。これに関してはじっくりやった方がよいと思います。

(1)のところをまずは一旦クリアできるように、我々も協力させていただければと思うので、ぜひ一緒に考えてください。

お願いいたします。

○河内係長 事業所としても、(2)、さすがにそこまでは厳しいなと思います。

○大口部会長 選択肢の1つとして頭に入れておくぐらいにして、いざというときにらせるようにと思います。

そのほかいかがでしょう。大丈夫ですか。

また引き続き4月にいろいろなことが動くかもしれませんが、ぜひともよろしくお願いいたします。

それでは、次の案件にいきいたいと思います。

医療・介護連携です。ご説明をお願いいたします。

○河井係長 医療・介護の推進担当の河井と申します。よろしくお願いいたします。

3ページの「メディカルケアステーションの活用方針について」ご説明させていただきます。

こちら令和6年度の活用方針ですが、令和6年度中に全25ハウカツで、MCSの登録を1人以上行い、医療・介護連携のツールとして活用していくことを目標としています。

MCSでは、個人情報の取扱いもできますので、医療・介護連携推進事業のほか、事業者様とのやり取りの中でも、使っていただければと想定をしております。

ただ、MCSの個人情報を取扱う際は、区の個人情報の取扱いの関係で、モバイル端末ではなく、セキュリティのかかった執務室内でのPCのみでの使用となっております。

こちらをご利用いただく場合は、守秘誓約書を区に提出して頂いております。法人の中には、いろいろなセキュリティポリシー等々で難しいというお話がありましたので、そういった場合にはご相談

頂いて、こちらでも使えるような形になるようにご説明を差し上げるということで行っております。

令和7年度につきましては、仕様書の中にもMC Sの仕様を明記して、活用していただくということを想定しております。

令和5年度のMC Sの活用実績ですが、色の濃くなっているところが、ハウカツの実績です。1月末で22ハウカツに登録して頂きました。今日現在、確認できているところでは、今24ハウカツにご登録いただいております。

来年度、全ハウカツに登録していただくことを目標にしておりましたが、今の状況を鑑みまして、できれば3月中にあと1ハウカツご登録いただいて、全ハウカツで使えるよう、お願いをしていきたいと考えております。

また実際の登録ですが、1月末時点で742件、2月末時点で753件と順調に件数が伸びております。

令和5年度の4月末時点で、登録件数が578施設だったものが、1月末時点で753施設まで増えておりまして、こちら、今後もいろいろな場面で区からMC Sの登録を説明させていただき、皆様にぜひご活用いただきたいと考えております。

参考にユーザーの数、登録している人数ですが、1月末時点で1,753名ご登録いただいております。

また、今後の課題としましては、ご登録いただいたあとの活用方法です。実際にいろいろな事業者様の中で、大いに活用している事業もございますので、今後はそういったところを横展開として皆様にお伝えをしていきたいと考えております。

す。

私からの説明は以上となります。

○大口部会長 ありがとうございます。

このメディカルケアステーションの活用方針に関わるのところ、皆さんから何かお気づきの点とか、ご意見とかありますか。

鈴木委員、どうぞ。

○鈴木委員 登録者数はどんどん増えているのは分かりますが、現場の感じだと、ほぼ一切使われていません。利用しているのは、慣れている人たちが中心となって、そこだけでグループができているから使っているだけではないかと思えます。何人かケアマネさんとお話するのですが、登録だけした、施設がどれだけした、でも使い方が分からないと言っています。私はここにいる立場でもありますから、サービスを利用する側とともに、普及する立場でもありますので。例えば、模擬の患者さんの部屋をつくってみたからどうですかと、そのアカウントに紹介のメールを送っても返事がないのです。

分からないのと、いじらないという両方なのです。それは、ここ2、3年ずっと感じていることです。でもその利用しない側の気持ちもよく分かるのです。恥ずかしながら、薬剤師会でも新しいシステムを入れるときは、登録者数すら増えないので、だからここまで増えたのは逆にすごいなとも思うのです。

登録しても実際使っていない。使い方は講習会などで、パソコンなどを持って行って、実際にここをこういうふうにクリックして、こういうふうに登録して、こういう患者さんの情報を立ち上げて、これをみんなで共有しますというような

形で、実際の使用例を説明しています。いい症例がありました。ではなくて、このようにファイルをアップしました。とか、実際の操作方法を説明しないと、登録者数だけ増えて、利用者数は上がらないというのが目に見えているので、私もやきもきしているのです。

もう、登録者数を増やすことや、症例の共有などの段階ではなく、実際の操作方法を説明したり、積極的に操作してもらったりするという段階なのではないかと思っています。

これを使うことで、すごく手間が省けるのですが、現場の手間が省けることよりも、利用の面倒くささが先に出ていると思います。これを広げていくことは絶対よいことだと思うので、私は今日からでも担当の患者さんとのやり取りなどに利用したいと思っているくらいです。これは、早急に使い方を普及してもらわないといけないのではないかと思います。

総数は、そんなにもう増やす必要はない。1500人と言ったら、各組織、2、3人ということになります。2、3人登録しているのに、誰も稼働させていないというのは、使い方が分からないからだと思います。ぜひ、ステップアップしてほしいと、現場からは思います。

○河井係長 ありがとうございます。1点目の、セキュリティがかかった執務室でのPCの使用というのは、ホウカツに限ったことですので、患者さんや医療関係者の皆様に関しては大丈夫です。

○鈴木委員 スマホを1台持ってきて、現場で画面に映して、一緒に触ってみるなど、高齢者のスマホ教室ではないですが、そういうふうにやってほしいです。1回ではなくて、何回も。

○河井係長 承知しました。地域ケアネットワークなどで実際の操作の仕方についてご説明をさせていただいています。が、今後もいろいろな場面、場面に出席講座のような形で、ご説明に伺えるようにしていこうと思います。

今もご相談いただければ伺ってはいますが、そういった仕組みづくり、にも取り組んでいきたいと思っています。

○鈴木委員 多分、相談はしないと思います。興味ないことに相談はしません。興味あることは、相談しないでいじります。私も相談はしないで、説明書を見ずに触っていましたから。

こちらから使いなさいと言うフェーズに移らないと、使う人は増えないです。20代、30代の若い人から、60代、70代の方など、いろいろな世代の方がいらっしゃいますから。

そういう方々が努力して触れるようになったので、その壁を取っ払ったほうが、多分普及するだろうと思います。

○河井係長 承知しました。次のフェーズに移っていくという点に関しては、やり方をまた研究していきたいと思います。

ありがとうございました。

○大口部会長 次のステップという形なのですね。ホウカツでもそういった意味では、登録は増えて、業務委託評価の中でも、このシステムを使っているという話が出てきました。区民向けに携帯の使い方講座を開催したりすることが、最近増えていますが、実際に触ってみるなど、こちらから何かしらのアプローチをして、うまくホウカツとも連携していけるといいのかなと思います。

○河井係長 はい、承知しました。

○大口部会長 ほかにいかがですか。

○結城委員 河井係長、ハウカツは登録はしても、執務室内のPCと言われると、稼働が悪いなという印象を持っています。ルール付けをしっかりとした上で、実際、動かそうと一歩出ないと、正直やりづらいなと思います。とにかく使ってくれという投げかけをしていただかないと、多分登録はするけれども、活用はしないという形になるのかなと思っています。私はやり始めたらとてもよいと思うし、やりたいと思っています。あとはしっかりとルールと、しっかりと後ろ盾があればできると思います。期待していますので、どうぞよろしくお願いします。

○河井係長 ありがとうございます。

○大口部会長 ほかにいかがですか。

○鶴沢委員 私もこれを使っているのですが、まだ利用者単位でいくと2名くらいしか使っていません。ケアマネジャーは普段、医療関係者、福祉関係者と連絡をとるのですが、どちらかという福祉関係者のほうが、連絡は取りやすいのです。もちろんさらにMCSを使うと便利なのですが、今のところまだ不便は感じていないのです。1回、お医者さんや薬剤師さんにつながったという例はあるのですが、圧倒的に情報量は増えるのです。そうすると、その利用者さんに対する見立てが増えますので、非常にありがたいです。

ケアマネジャーの視点だけで言えば、まず医療関係者と使う基礎ができると、利便性をより強く感じるのではないかなと個人的には思っています。

なので、お互い使っていきましょうという工夫が、現場サイドでもできればいい

いのかなと感じたところです。

○河井係長 ありがとうございます。皆様方から顔の見える関係を構築し、その上でMCSを使っていただくのが理想だと思っておりますので、そういった場面を多く作れるようにしていきたいと考えております。

○大口部会長 ほかにいかがですか。

○賀川委員 登録数で見ると、医療関係者も少しずつ増えています。コロナ陽性の患者さんを自宅療養で見ているときに、意外とMCSを使っております。3年間ぐらいで約600件使っているのですね。そういう時こそ、いろいろな関係を持つことができ、患者さんのためにもなっていくのではないかと思います。

あと、今年度から認知症検診が始まりまして、それもMCSで情報発信や共有ができますので、少し利用しているとは聞いております。

○大口部会長 徐々に取り組みされているところが出てきているということですね。

多分、推進会議でもこの話題が出てくるかなとは思いますが、この運営協議部会においても、MCSを使っていく意義もありますし、ハウカツサイドとしても、いろいろな業務をやっていく中でのよさはあるわけです。そういった意味で、もうひと工夫のステップという形が、お願いしたいところです。

○賀川委員 パソコンで打つてくることが主体ですので、ラインワークスを使えば、同じグループでしたら、情報の共有などに活用できるのではないかと思います。

○大口部会長 うまく1～2年かけてホ

ウカツだけではなく、関係者からもその利用につながるようにしていければということですかね。

○鈴木委員 医師会さんも中心になって、介護関係の勉強会など全部、MCSを使ってオープンにしてくれているのです。そこから「参加します」とか、「ありがとうございます」といったやり取りがありました。触ってなかった人は、まず触ってみるといいところが見えてくると思います。入ってもらって、実際に見てもらえるといいと思います。私もあれを経由して、医師会の勉強会などを申し込んだこともありますし、それを薬剤師会に広げることもしていますので、とてもいいツールです。患者さんとのやり取りだけではなくて、地域で顔見る関係つくるいいツールとも扱えるので、ぜひそういう視点でも使っていてもらえればと思います。

○大口部会長 25のハウカツの登録が全部終わった後、次の25はずっと25のままだと思うので、運営協議部会の議論をするときは、ハウカツがどれぐらい見たかなということが、着眼点として持てて広げていければという感じですかね。

○賀川委員 多職種連携も5ブロックございまして、研修は50名あるいは100名近く、参加していただいています。その中にハウカツさんも入ってきていただいていますので。少しずつ進展はあります。

○大口部会長 ありがとうございます。そういうことを含めて、ぜひとも次年度以降もよろしくお願いいたします。

ほかにもまだ案件が残っておりまして、ハウカツの運営方針の案についてで

す。こちら、事務局からご説明いただけますでしょうか。

○坪井係長 それでは、別紙でおつけしました「令和6年度地域包括支援センターの運営方針（案）」についてでございますが、正直、昨年度とほぼ変わりはありません。一部、生活支援体制整備事業のところの文言が変わっていますが、ほぼ影響がないものでございます。説明は以上です。

○大口部会長 ありがとうございます。

今回の運営方針の案というものになりますが、実質的に業務委託評価のときにも各業務があったかと思います。その業務の委託契約などはいろいろとあるわけですが、ハウカツに区としての方向性を示すときの資料になっています。目次を見てのとおり、各業務どういったことが行われているのかという話だったので。私たち運営部会としても、こころの業務の話が、この部会の中でも議論になるのだということの資料でもあります。

次年度のものでもありますので、次年度の運営協議部会とかそういうときの参考にもしていただきたいなと思います。今、配られてちょっとまだお目通し、なかなか難しいものでもあるかと思うのですが、目を通していただいて、これから先の運営協議会の部会の検討の中でも、方針ではこうあるのだけれども、こういう方針も大事ではないかということなどが、委託評価やこの議論の中から出てきたりしたら、言っていただいて、検討していただくということもすごく大事かなと思っていたりします。

実際、方針を考えるときは、前年度からの踏襲ということも結構多いとは思

のですけれども。各所管課で次年度どうしようかなみたいなこと検討してやっていくようなプロセスだったりするのですか。

○坪井係長 毎年、夏ぐらいに検討しまして、秋、冬でハウカツに提案をして、その後対応します。その後に仕様書も考えています。

○大口部会長 ハウカツの皆さんも検討されて、中味を見た上でのものを私たちが見ているということになるわけですね。

○坪井係長 おっしゃる通りです。

○大口部会長 ハウカツということだけではなく、結城委員がいらっしゃる基幹ハウカツの役割も入っているものになっていることでしょうか。

○結城委員 一緒に見て、アドバイスをしたりして、一緒に考えさせていただきます。

○大口部会長 ありがとうございます。

すごくたくさんの方が書かれていたりする部分もあったり、災害の話なども最後に書かれたりする中で、これに突き動かされて、いろいろと動いているということが見えてくればと思っています。

この件について、ほか皆さんからご意見や気になるところはありますか。

お願いします、結城委員。

○結城委員 まずですね、運営方針がしっかりつくられていて、また毎年変えていただいているところで、非常に助かっています。ハウカツとして段々、精査されていって、やることがはっきり分かってきていますので、これをやれば業務としてはいいのだなということが分かりますので、非常にありがたく思っています。今後、話しながら、または検討いた

だきながら、このところを手順にしていければと思っていますので、今後ともこんな形でお願いできればと思っています。

ハウカツはいろいろな業務がたくさんあって、かなり間口が広いので、いろいろなことをしろというか、してくれという依頼がきますが、この運営方針があると、この業務の中でできることはここまでということが整理できるので、非常にありがたいと思っています。

以上です。

○大口部会長 ぜひ、業務委託評価にも区の管理職の方々が入っていただいたりするので、そこから見えてきたものなども、運営方針などに加味しながら、次年度以降もつくっていただければなと思っています。

ほかに皆さんで。初めて見られた方も多いかと思うので、また引き続き思うところがあったりしたら。どうぞお願いします。

○鶴沢委員 今回の改正の中で、居宅介護支援事業所の特定事業所加算というのは、2個変更になった。その1つに、たしかこれまで地域包括支援センター等との研修会みたいな、その内容が例えば今般の話題になっているヤングケアラーや幾つか具体的な項目が上がって、そういったものに参加しているという要件が、今回の改正の中に、幾つかある中の私の記憶がおぼろげなのですけれども。

そういったところ、積極的に事業所としては、ハウカツさんと一緒にやりたいなと思っていますので。事業所さんによってはないかもしれませんが。そんなところをバックアップしていただけるとありがたいなと思います。

○大口部会長 運営方針自体の公表自体は、ハウカツにこれでお伝えしているということですね。

○坪井係長 おっしゃる通りです。

○大口部会長 大丈夫ですかね。皆さん、これで。

また、継続的に運営方針についてはまたご意見を頂いてもいいことかと思いますので、1つ情報として持っていただければと思います。

実際、次第に沿って全部をやってきたところで、今までのところの協議事項の1から4番までできましたが、全体を通じて、これはということだったとか、さっき言おうかなと思っていたこととか、運営方針、今、見ていて「うん、これは」ということもあったりしたら、ご意見を頂けるとありがたいのですけれど、いかがですか。

○中村委員 この中で、唯一、該当に出なかったのは私だと思うのですけれども。私が知っている包括の職員さんで、都営住宅のそば、小さな喫茶店があるのです。そこへおばあちゃんたちが寄っているの。毎日のように。そこへハウカツさんが、わざわざ自転車で、食事に来ているの。弁当、実際取っているのだよ。取っているのだけれども、取らないで、そこへ来て、一緒に食べておばあちゃんたちと仲よくなっているのです。そういう関係をつくってほしいなと思います。

外へ出ろというのではなくて。職員が少ないのだから、無理だろうとは思いますが、そういう姿勢は大事ではないかな。だから、おばあちゃんたちとすごい仲いいです。

そうすると、団地だから、すぐだーつと伝わってしまうから。「あの人いい

よ」と言うと、だーつと行っちゃう。だから、そういう関係をつくってほしいという要望でございます。

それと、年寄りは1回や2回では覚えられないから。繰り返しお願いします。

○大口部会長 ハウカツに通い続ける、通いが必要だということですよ。ハウカツの皆さんも結構、実態把握という形で自宅の訪問だけではなくて、コロナのことも収まってきたので、地域に出向いたり、地域のイベントとかにも参加し始めたりという様子は、話の中にもあったりしたと思うので、次年度以降、そういった取組もいっぱい出てきて、横展開ができていくといいのかなと思います。

○鶴沢委員 とても大事な点だと思います。ハウカツさんによっては、地域のお祭りに参加していたり、それが業務なのか業務ではないのかというのは、法人さんによって。

○中村委員 業務ではなくてね、その人がその人たちと仲よくなりたい思いで来ているのです。俺もよく会うのだけれども。

○鶴沢委員 私の感覚からすると、それ立派な業務だよと思うので、ぜひバックアップしていただいてと思いますけれども。

○大口部会長 そうですね。そういったことも1つ1つが地域とのつながりとか、地域ベースですね。人の生活支えているので、大事なんだという、足立区なりのビジョンに向かってやっていくということで、そういうことも大切にしなければいけない。

ありがとうございます。大切なご意見を。

そのほか皆さんのところであります

か。お願いします。

○結城委員 私もハウカツの代表というところで、他のハウカツの職員からも幾つか話をもらいました。今すぐ答えとかではないのですけれども、話します。

ここ5～6年ぐらいですかね。大分ハウカツの業務が様変わりをしてきたりしています。すごくよかった点としては、まずハウカツの担当地域の人口の数によって、職員数が適正に配置などを頂いて、適正な数になってきたのかなというところがすごくありがたかったという話を聞いています。

また、委託費もそれにともない、少し上げていただいたりとか、適正になったりというところ、非常にハウカツとしてはうれしく思っているという声を聞いています。

森システムは先ほど言っていたものが、実は私もハウカツの経験が長いのですけれども、昔からそういうシステム入れてほしいという話をしていました。ようやく入ったというところで、非常に業務が見やすくというか、介護など、いろいろと分かる点が多くなったので、ハウカツはすごくやりやすくなったというところで、非常に感謝をしていると聞いております。まずはありがとうございます。

履行評価とかも含めて、分かりやすくなってきたので、目指すところが非常に分かりやすいというところで非常によくなったと言っています。

ただ、その一方で履行評価などの、やらなければいけないところのみを優先してしまっていて、先ほど、委員からあったとおり、少し遊びというのでしょうか、地域の方との接触みたいなものと

か、どうしても業務を優先してしまっていて、そういうことがやる余裕がなくなってしまうています。最近のハウカツの方向性とちょっと逆なところもあるのかなというところがあるそうです。

それから、人材の不足、福祉業界自体の不足が進んでいます。ケアマネジャーもそうですし、ヘルパーもそうなので、そこについては、次の人材を育成するやり方を生み出さないといけないのではないかと思います。そこは議論を、今もされているのですけれども。より積極的にしていただきたいという話がありました。

それから、あと生活支援体制整備で、今業務を行っているのですけれども。自主グループ、ウォーキンググループみたいなものをつくることだけで、そこで終わってしまっています。地域に根づくものだったり、地域からの課題を解決するような仕組みづくりが本来必要であり、そこまで至っていない現状があります。現在のハウカツでは、ここは、やらなければいけないもの以外にはやらないという風潮が少しあり、それでは生まれないので、ただそこまでは力が出せない。やらなければいけないことたくさんあり過ぎて。ということで、やれていない。もったいないですねというような意見も頂きました。

あと、重層的体制整備事業が、来年から始まるところです。これもしっかりした業務の分担ですとか、これによってハウカツの業務が一気に増えたりとかということはないようお願いできればということでした。

それによって、重層的な業務が増えることや、減るハウカツの業務も多分ある

だろうなと思っています。その辺の話合いですとか、体制というか、スキームづくりですかね。そこをしっかりとやっていただきたいというような要望を頂きました。

あと、これは基幹にしっかりせいということなのですけれども。最近、ハウカツの業務にいきなり文書がぽんと流れてきていて、しっかり議論されないまま、これをお願いしますとか、アンケートが飛んできたりとかが多くなりました。しっかり基幹と行政とで業務をお願いする時に、これはどうでしょうかと一緒に考えていただいて、これがいいのではないかということを整理いただき提示してほしい。それは基幹もそうですし、居宅さんとか、ケアマネさんの部会なんかとも一緒に連携をしながらやってほしいということが上がっていました。

あと、委託費の関係で、家賃補助はかなり厳しい状況があるということで、相場の家賃と大分差があって、その辺はかなり厳しいのではないかという意見も頂きました。

今すぐというわけではなくて、今後の改善点だとか、現状の相場なんかも確認しながらやってほしいといったところでした。

あと、実態把握なのですけれども、実態把握にいくのは、いいのだけれども、不在率のところ、拒否率のところをあまりにも下げてくれというところだと、3回、行っているのだけれども、それ以上、5回、6回、7回ぐらい行かないと会えなかったり、不在率が下がっていかないところが、正直、いろいろな業務がある中でかなりつらいところだということの話も頂いています。

私も実は評価委員会の際に、ハウカツへ実態把握の方法について聞いてみたのですけれども。いい工夫あるかと聞いたら「ないです。行くしかないです」ということで、何回も行かせていただいていますと話があって。分かるのですけれども、それをやっていたら、ほかの業務がどうしてもおぎなりになって、かなり業務が圧迫している感はすごくあるなという印象を持っています。

とりあえずこれぐらいの話を頂いてきましたので、一応ご報告がてらお話いたしました。

以上でございます。

○大口部会長 今の話も踏まえつつということで、そうなのです。今話があった重層的体制支援、何だそれはとなってしまうかもしれませんが。ほかの自治体さんでは始まったりしてというところもありつつ、足立区もしっかり様子を見ながら体制を整えている中で、ハウカツにも結構関わってくる仕組みだったりするので、次年度以降の進行状況によって、また業務委託評価だとか、いろいろなところに絡んでくるかと思うので。

私自身も国のこの重層のやつと関わったりしますけれども。とにかくどういうふうに仕組みを組むかというところで、結構、大事なところだったりするので、次年度、そこら辺をウォッチしていこうと思います。

あと、人材確保はまとめのコメントでも、入れていただいて、介護・医療、どこでも人材確保が難しい状況なのは承知の上なのですけれども。ハウカツのお話聞くと、どこにも書いてある、人はという話があったりして、運営協議部会も国から示されているやるべきことの中に、

この運営協議部会の中で、このハウカツの人材確保どうするかということを議論することというのが、役割としてはあるのです。ただ、何かうまくハウカツの方々のところに役立つことができればいいのだろうなと思いつつ。ただ、実質的には法人の皆さんにかなりの部分をお願いしたり、努力していただいたりというところが多いかとは思うので。そこは私自身が、ハウカツが人材の部分の確保のところで、かなり大変な状況で頑張っているということをまずこちら側、受け止めた上で、区と相談しながら、何かできないことはないかということ、考えていくことかなと思っていたりはしているところがあります。

法人の皆様にはプッシュしたりとかそういうことしてはいますけれども。いろいろな手も踏まえてということで、業界団体の皆様も、ハウカツということのイメージからすると、そこに転職するとなると結構ハードルが高い方々も多かったりはするのですけれども。

次年度以降もまたこの話は、引き続きこの部会の中でもできればなと思うところ です。

ほかに皆さんいかがですか。大丈夫ですか。ありがとうございます。

ではまた、第1回がまた次年度あるとは思いますが、それに向けて、それぞれのお立場で、制度改正だとか、年度始まっていろいろなことがあるかとは思うのですけれども。引き続きハウカツの状況や活動とかも確認しながら、進めていただければと思います。

では、ここで、私で任せられたところの委員の協議事項は以上になるかとは思いますので、事務局に進行をお返しした

いと思います。

○瀬崎課長 大口部会長ありがとうございました。委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場で貴重なご意見、また行政に対する課題のご意見も頂きまして、ありがとうございました。

次年度以降の参考にしていきたいなと思っています。

区も4月以降、組織体制大きく変わらして、重層的支援につきましては、今、くらしとしごとの相談センターから福祉まるごと相談課という課ができて、そこでいろいろな相談を受け入れて、庁内、横串を差して月に3回ぐらい支援会議をやったりとか、また管理職を入れた重層的支援会議をやったりとかいうところを分かりやすく区民の方にも見せていきたいなと思っています。

私ども地域包括ケア課につきましても、高齢福祉課とくつつきまして、名称としては、高齢者地域包括ケア推進課となります。

それで、高齢福祉課がなくなりまして、地域包括ケア推進課が高齢福祉課を吸収するような形になります。

あともう1つ、高齢福祉課の援護とか権利擁護の関係、そこと河井係長の医療・介護の部署が集まって、医療・介護連携課という課ができます。

来年の1月以降、江北にできる、すこやかプラザに福祉まるごと相談課の一部と医療・介護連携課が入っていく形で、そこでもう少し分かりやすくMCSの取組だとかにつきましても、また在宅療養の取組につきましても、区民に分かりやすく啓発していきたいなというところでございます。

本日、ご意見いただきました運協の部

会につきまして、この親会議が3月15日に午後2時から8階の特別会議室で地域包括ケアシステム推進会議があります。今回、議題が4件と報告事項も10件ぐらいありまして、かなりボリュームがあります。この評価の話も議題の最初に報告する予定になっていますので、引き続きよろしくお願いしたいなと思っています。

以上で、本日の会議は終了となります。

次回につきましては、現時点では、この運営協議部会につきましては、7月26日を予定していますので、また、親会議の推進会議もメンバー改選の時期を迎えますので、それぞれの所属団体に推薦依頼という形で、3月中ですけれども。部会自体は7月26日という流れになっています。

それではこれにて令和5年度第2回足立区地域包括ケアシステム推進会議地域包括支援センター運営協議部会を終了いたします。

本日はありがとうございました。